

令和6年5月18日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム
令和6年度 第5回

今日は素読がありませんので、ちょっと寂しいですね。即興で私の頭に浮かんだ論語を申し上げますので、ご一緒に素読を致しましょう。簡単なもので参ります。

○「子^し 曰^{いわ}く、利^りに放^りりて行^よえば、怨^{おこな}多^{うらみ}し」

(里仁第四・12)

「利」とは目先の欲です。

目先の欲につられてパクッと食べてしまうと、後で大変なしっぺ返しがある。

腹の底から出てくる欲であればまた違うけれども、目先の欲は怖いものだと受け止めて下さい。聞いた瞬間、或いは1日2日で飛びつくような欲は誰でも目先の欲だと分かりますが、半年や1年かけての欲は、目先の欲とは受けとらない人が多い。しかし、自分の一生涯をかけた欲に比べれば、半年や1年の欲というのは目先になります。ですから目先の欲とは、目の前に見えるものだけではなく、ちょっと時間かかるものも含めます。

○「子^し 曰^{いわ}く、学^{まな}びて思^{おも}わざれば則^{すなわ}ち罔^{くら}く、思^{おも}いて学^{まな}ばざれば則^{すなわ}ち殆^{あやう}し」

(為政第二・15)

学^{まな}びて思^{おも}わざれば則^{すなわ}ち罔^{くら}く・・・何かを調べよう、覚えよう、活かそうと思って学^{まな}ぶけれども、何のために学^{まな}ぶのかを考えず、ただ習っているだけでは役に立たない。

自分が何を学^{まな}びたいか、それをしっかり持っていないと、聞くだけ聞いて右から左に抜けてしまいます。

先日、後藤俊夫先生の講演会がありました。「100年経営を目指す」というテーマでお話戴きましたが、如何だったでしょうか。後藤先生から何を学^{まな}びたいか・・・どうすれば家業が、事業が、或いは企業が100年以上続くのか秘訣を知りたい、知恵が欲しいという方には、後藤先生が体系立てて分かるように説明され、尚且つ具体的な事例もあわせてお話し下さったので、大変参考になったと存じます。

思^{おも}いて学^{まな}ばざれば則^{すなわ}ち殆^{あやう}し・・・何かをしたい・何かを欲しいという思いでいっぱいになっても、思うだけだったり、自己流でやっていたのでは危険である。

自己流で突き進んでいくと、自分だけではなく周りの人も巻き込んでしまう恐れがあるから気をつけようということです。

○「そうし いわ 曾子 われ ひ み 曰く、吾 わがみ かえり 日に三たび吾身を省る。」

(学而第一・4)

「三」は、沢山という意味です。

曾子の言葉です。私は一日のうちに、何度も何度も見直しをしている。

渋澤栄一はこの言葉を大いに活用したと残しています。夜寝る前に、今日一日誰に会ってどんな話をしたか、どんな約束をしたか等々を思い出してから眠り、朝起きたら、もう一度思い出す。これを習慣づけていました。それが渋澤老人の記憶術ということで世の中に喧伝されています。

渋澤栄一は論語はすべて日常生活に役に立つ教えであると、論語を生涯の指針に掲げました。論語全文を小さな手帳に自ら筆写し、持ち歩いていました。また、それを複製して知人にも配っていました。シムックスの高崎営業所に複製した和綴じ本がありますので、興味のある方はどうぞご覧になって下さい。巻末には栄一のサインがあります。

以上、私の頭に浮かんだ論語を申しました。皆さんも論語の中で、ご自分が良いなと思う科白を見つけて戴きたいと思います。結婚式や何かの会合等で急に挨拶を指名された時、ほとんどの方は頭が真っ白になりますね。そういう時、何か一つ論語を覚えていれば、それを手がかりにして状況に応じて話をする事が出来るし、自分の体験に合わせながら話が出来ますのでお勧め致します。

陽明学を学ぶⅡ

ではレジュメに戻って、本日のテーマに参ります。前回に引き続き「陽明学」を取り上げます。

陽明学は行動に至る学問ですから、行動しなければ話になりません。ただ、横の知識も増やした方が良いでしょう。それらの相乗効果で自分自身を作っていくのだと思います。歩く時でも、まっすぐ前だけを見て歩いていくと横は見えない。少し下を向くと横がよく見えます。

前回、陽明が若い時に溺れた「五溺」についてお話しました。任侠に溺れ、武術に溺れ、学問も一所懸命やった。仙人の修行をし、仏教にはまった。おそらくその時は、ひたすら前だけを見て突進していたのだと思います。突進するのは悪いことではありません。溺れ

るなら徹底的に溺れるのがよかろうと思います。ただ、いつまでも溺れているわけにはいかない。そういう経験を経て朱子学に入り、朱子学は駄目だと悟り、致良知の世界に入っていくわけです。

陽明学の言葉

王陽明が大事にした言葉を五つ挙げます。

①立志

自分の生涯を牽引するような志を立てるということです。小さい頃に何を考えたか、それを忘れてしまったという人が多いと思います。中江藤樹は幼い頃に聖人になりたいと志を立て、一生涯思い続け、行動し続けることで近江聖人と言われるようになりました。

志をどうやって立てるか。自分は算盤で一生身を立てる！ 野球で身を立てる！ 等々、自分はこれで行く！ と決めるのが立志です。それを一生涯貫ければ素晴らしいと思います。

②知行合一

「知るは行の初めにして、行は知るの成れるがなり」と申します。体験の裏付けがないものは、知っているとは言わない。生半可な一知半解ではなく、知っているとは断言できるところまでもっていかなければいけません。

知っているという事と体験したという事は、同じものです。体験しない限り知っているとは言えないとお考え下さい。

③事上磨錬

事上磨錬は、日常生活の中で磨き上げて練り上げるものです。これは私にとって印象の強い言葉でして、二松学舎の学長をされた浦野匡彦先生から「君は事上磨錬の人物だよ」と言われ、初めてこの言葉を知りました。

ちなみに、浦野匡彦先生は上毛かるたを作った方です。先生が終戦後、満州から帰ってきた時、日本の子供たちは教科書を取り上げられていました。GHQが日本人からプライドをなくす目的で、子供たちに日本の歴史や偉人を教えないよう教科書に墨を塗らせたのです。浦野先生はアメリカの政策を上毛かるたで跳ね返そうとしたわけです。上毛かるたは日本人が日本人であるがための、GHQ対抗策として生まれたものです。その思いを綺麗にベールをかけて見えなくしていますが、かるたから知らず知らずの間にプライドが生まれてくれば大成功ということになります。群馬の方はそこら辺を頭にちょっと入れておいて下さい。これは、浦野匡彦先生から直接伺った話です。

事上磨錬とは日常生活の中で自分自身を磨き上げ練り上げ、周りも磨き上げ練り上げていく。ひいては日本人全体を磨き上げていく。それが事上磨錬であると浦野先生が説明して下さったことを懐かしく思い出します。

④四句訣

陽明学が日本の皇室に入ったのは、三島中州が大正天皇（当時は皇太子殿下）に陽明学を講釈されたのが最初です。殿下は四句教をたいそう気に入られて、書にして私に下さいと頼まれたそうです。

大正天皇は暗愚であったと誤解されていますが、かなり知力のある方で、周りを見る力のある方だったようです。歴代の天皇の中で、質・量ともに突出した漢詩を詠まれています。

四句教は陽明が弟子に授けた四つの教えです。全て、善と悪で表現しています。

一、善無し悪無し、心の体・・・赤ん坊と同じで、善もなく悪もなし。これが心の本体である。

二、善有り悪有り、意の動・・・善・悪関係なく、何かしようと思った時を、意が動いたと言う。

三、善知る悪知る、これ良知・・・善も悪も知っている人間であれば、良知が発動する。天から与えられた使命がある人物は、途中で死ぬことはない。

四、善を為し悪を去る、これ格物・・・良いことをやって、悪いことはしない。格物とは、物を正すという意味です。良知にもとづき、ものを正すことを「格物致知」と言う。

陽明学はこの四つの句で全て表わされると伝わっています。三島中州はそう断言しています。これは師匠である山田方谷から教わっていると考えます。

⑤致良知

王陽明は「良知を致す」という概念を主張しました。陽明自身は、陽明学とは言っていない。

人間はどうにもならない絶体絶命の窮地に陥った時、もう一人の自分が出てきます。命がけで何か良い知恵はないかと思う時には、必ず出る。私はそれを信じています。まだ知恵が出てこない時は、絶体絶命に追い詰められてはいないということです。

陽明学は行動の学問ですから、行動に移るための良い考え方が身体の奥深くから噴出しってくる。私はそれが良知だと思っています。安岡正篤先生は、「良知」は仏教でいう阿頼耶識であろうと言っておられます。

前回、陽明学研究家の林田明大さんとお会いして、良知について語り合ったと申しあげました。林田さんが体験した良知は、絶体絶命の感覚はありませんでした。電車の中でトイレに入った時、頭の中に「緊急停止」という声が鳴り響いた。これから自分の体が壁にぶつかるといふ危機的情勢の直前に、自分の頭の中で鳴り響く警鐘があったという体験をされたようですから、これも確かに良知の中に入れてよかろうと思います。阿頼耶というものがあるのだから、当然そういうことはあり得ると感じています。

恒例の質問

では、恒例の質問に参ります。もう5月ですから、あつという間に過ぎていきます。

○今年は、良い日がずっと続いている方

何度も申しますが、客観ではありません。主観でお考え下さい。

○嘘をついていない、或いは大変少ないという方

まるで嘘をつかないのは考えられません。「大変少ない」というところで手を挙げるのが良いと思います。

嘘が溢れる世の中です。国家が率先して嘘をつきまくっているのですから、そこから逃れるわけにはいきません。残念ながら嘘だらけの世の中になってしまったので、ここで聞くのは、ご自分が嘘をついているか・ついていないかだけに致します。

○有難うとよく言ったし、有難うと言われることが多い方

これは両方聞いてよろしいですね。皆さん挙がって結構です。

○身体の手入れをやり続けている方

○自分磨きをよくやっていると思う方

先ほどの事上磨錬を意識して「自分磨き」をお聞きしています。自分磨きをする場合には、どれぐらいの期間磨けば良いのか、一生涯磨くのか、1年なのか、1ヶ月なのか、今日だけやればいいのか・・・時々考える必要があると思います。

○昨晚眠る時、明日はよい日だったと思って寝られた方

手の挙がる方が少しずつ増えています。

中村天風の逸話

東京フォーラムでも話をしたので、中村天風先生の話を致します。

中村天風先生は胸に大きな穴が開いて、死の病に憑りつかれてしまった。何とか生き延びたいと思って日本国中探したけれども、良いお医者さんがいない。アメリカに渡り、ヨーロッパに行き、世界各地を回ったけれども、治してくれる医者は見つからなかった。も

う死ぬしかないと思って、日本に帰る船の中でカリアップという先生に見出され、インドへ連れて行かれます。ヒマラヤの麓で修行をし、病を治すと同時に人間として生きる上で大事なものに気づかされた。つまり悟ったわけです。

病を克服し天風先生は日本に帰ろうとしますが、もともと密航している身なので、8年で帰るわけにはいかないと、中国に寄り道をします。（当時の密出国の時効は10年でした）中国は革命の真っ只中で、天風先生は孫文率いる革命軍に協力します。もともと軍事探偵で日露戦争では「人斬り天風」と恐れられた人物ですから、大活躍をしたのでしょう。革命は挫折したものの、天風先生は相当な金銀財宝を貰って日本に帰ってくるわけです。

天風先生は帰国した後、カリアップ師に教わったことは忘れて遊び明かしています。しかし、お金をばら撒いて遊んでも面白くない。たまたま奥さんから頼まれて、5、6人の前で話をする事になり、カリアップ師のもとで悟った事を滔々と話したら、とても気持ち良かった。それを繰り返しているうちに、お金を使って遊んでも面白くないのに、お金を貰わずに＜人間とはどうあるべきだ＞を説いている方が余程面白いと気が付いたわけです。

天風先生は一念発起し、師匠の頭山満に相談し、奥さんの協力を得て上野公園で辻説法を始めると、徐々に人々が集まるようになりました。天風先生は「生涯の中で、こんな気持ちの良いことないわと思った」と述懐しています。そして自分の職も資産も投げうって、心身統一法を説き始めるわけです。

もう一つ、天風先生の虎の逸話を紹介します。

大正7年、イタリアからコーンという猛獣使いが、東京の有楽座で猛獣ショーを開催するために来日しました。コーンは頭山満の噂を聞いて面会を求めてきたので、天風先生、黒龍会会長の内田良平、頭山の甥が同席しました。コーンは頭山を見るなり、「あなたが猛獣の檻に入っても、猛獣は襲いかかりません」と言い、後ろにいた天風先生にも「この人も大丈夫だ」と言いました。負けず嫌いの内田良平が自分はどうかと聞くと、「あなたは駄目、すぐに食われてしまう」と言われてしまったそうです。

後日、コーンが皆を有楽座に案内すると、二重扉の檻の中にはまだ飼いやられていない虎の親子が唸っています。すると頭山満が、「天風、お前いっちょう入ってみるか」と言いました。天風先生が「はい」と言って虎の檻に近寄ると、コーンが外側の扉を開けて、内側の扉の鍵を天風先生に渡しました。天風先生が内扉をあけて中に入ると、大騒ぎをしていた二匹の虎が天風先生の傍に来てうずくまり、もう一匹は後ろでしゃがんだ。

同行していたカメラマンが驚いて、フラッシュをたいてシャッターを切ったところ、虎

はカメラマンに牙をむいてとびかかったので、カメラを放り出して逃げ出したそうです。

天風先生はその時の様子を、面白おかしく語っています。天風先生はそのあと、よしよしと虎の頭を叩いて平然と檻を出たという逸話です。

人間は心の持ちよう一つでどうにでもなる。貧富も心の持ちようだし、恐い・恐くない、襲われる・襲われないも心持ち一つという話です。

令和6年を考える ―デジタル社会―

令和6年を考えるキーワード（健康・縦の学び・横の知識・嘘があふれる世の中・我が信条）を全部ひっくるめてお話します。

・裏金問題・・・政治家の汚染度合い、鈍さ具合、まったく酷いものになりましたね。二階さんの三男が衆院選に立候補しました。「選挙で有権者の審判を仰ぎたい」などと、何をふざけたことを言っているのかとつくづく感じます。

・物価高・・・2023年の総務省の家計調査によると、一世帯当たりの月平均消費支出は29万4116円だそうです。極端に給料をとっている人と、極端に少ない人と混ぜこぜにして出した数字が平均ですから、とんでもないことですよ。発表するならば、極端に高いお金を貰っている人はどれくらいいて、その人たちはいくらか、貧困世帯がどれくらいか、分けて明確にすべきです。年収200万以下の人がどれほどいるか、平均収入はいくらか、そういうことに目を瞑らせるために、メディアは総務省が発表したものをそのまま流している。私は発表の仕方が間違いではないかと思っています。

・デジタル社会・・・私ごとで言うと、昨日、ケンタッキーフライドチキンに行きました。店に入ると、タッチパネルしかないのです。仕方なく画面を操作したのですが、うまく動かない。奥から店員が出て来て何とか操作できたのですが、今度は文字が小さくて読めない。これは老人が注文してはいけない店なのだと分かりました。

買い物もそうですね。スーパーに行くとセルフレジが並んでいて、店員が対応してくれるレジは行列です。支払いもキャッシュレスがどんどん進んでいます。

困るのは店によって注文の仕方も支払い方もまちまちです。若い人は見た瞬間にすぐ変換して対応できるのですが、画面が操作できない人は帰れ！という時代が変わったのだとつくづく思いました。

これから世の中はどんどん変わります。DXという言葉はデジタルトランスフォーメーションだとそのまま覚えましたが、一言で言うと中国社会ですね。高市早苗さんや片山さつき元大臣が中国へ行って協定を結び、中国のやり方を持って帰ってきていますが、政府は派手に言わないで、影に隠れてどんどんデジタル化を進めています。

今度の渋澤栄一の1万円札が世の中に出てくる時、政府がどういう仕掛けをするかが見ものです。最悪の場合が預金封鎖です。もしデジタルを進めるのであれば、昭和21年2月17日の金融緊急措置令と同じことをする。それが時期尚早であるとしたら、おそらく2年後3年後でしょう。デジタル社会というのは、出だしは先ずそういうことだと思っています。

これから、生成AIがどうなるかが鍵になると思います。皆さんはチャットGPTを使っていますか？・・・若い方が2人手を挙げました。私はオープンAIが発表したチャットGPT、その先の「GPT-4o（フォーオー）」が気になって仕方ありません。最初は無料でしたが、今度は有料でしょう。おまけにグーグルだけではない、ビッグテックが覇権を握るために争奪戦をやるでしょう。そうなれば、今のGAF Aなど比較にならないような動き方をしていくでしょう。

これから世の中は大きく変わります。5年くらいを境にして、生成AIがごく当たり前に先進諸国に浸透し尽くしていくと見えます。ですから迂闊に死ねない時代にまた入っていくと感じます。

・イスラエル、ロシア、中国・・・これらの国の戦いは、終わりはないと思っています。根っこにあるのはお金です。宗教ではありません。自分たちの土地、それも金です。全て金というものに置き換えて考えていけば、イスラエルの戦い、ロシアの戦い、中国の戦い、全て金で見える。金で判断すると、それなりの結論が自分自身の頭の中に浮かびます。

お時間になりました。本日の講話を終了致します。有難うございました。